

月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぼがっぼ」

新年度
発進発信

特集
第46回入学式
(P.3-8)

1年生の4月 (P.9-11)
「あそび基礎演習」での
学生の姿



2年生の4月 (P.12-13)
自分で選ぶ授業の
始まり



- TOPICS (P.14-15)
- 教員からのおすすめ (P.16)
- !hot news! (P.17-18)



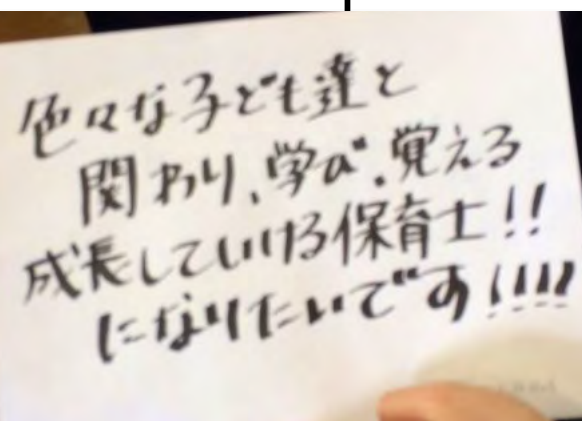


新

発進発信

年度

新学長と46回生となる新入生を迎え、明德の新年度が発進しました。入学式では、新入生一人ひとりが明德で達成したい「決意」を表明しましたが、この「月歩学歩」は、今年度も明德の生き生きとした「今」を伝えるべく、親しみやすく読みやすい冊子を目指す決意を胸に発信です。さらに、学生を中心とした、明德に集う人々の「声」もお届けしたいと思っています。今年度初となる第1号は、年度始めを迎えた明德のフレッシュな「今」をお届けします。





4月3日、満開の桜と式場内外を彩るパンジーと共に、明德は46回生となる新入生132名を迎えました。緊張の面持ちで会場に集う新入生でしたが、式前に行われた2年生による歓迎の演奏で、会場は和やかな雰囲気になりました。式後は、2年間で達成したい「決意」を新入生一人ひとり壇上で発表する「決意表明」が行なわれました。この「決意表明」はここ数年、毎年行われています。なぜなら、明德では、このように一人ひとりが自分の考えを人に伝え、共有することを大切にしているからです。新入生は緊張もあったかと思いますが、2年生の曾根さんと前塚さんの爽やかな司会、小倉さんと宮内さんの細やかなサポートにより、それぞれが堂々と、今の思いを表明できたのではないのでしょうか。一人ひとり、さまざまな人生を歩んで、今、この明德に、保育を学ぶために集っていることを改めて感じました。

次ページからは、このような明德らしさ溢れる式での、新学長による「学長式辞」、「理事長挨拶」、2年生代表からの「歓迎のことば」、そして新入生代表による「新入生のことば」をご紹介します。



平成27年度 千葉明德短期大学入学式

歓迎の演奏

1. 「ディズニー・メドレー」 前塚和樹 牧口みなみ (ピアノ連弾)
2. 「美女と野獣」 宇井有未 (ピアノ) 中島啓 (サクソ)

式次第

1. 開式の辞
2. 学長式辞 学長 金子重紀
3. 理事長挨拶 理事長 福中儀明
4. 来賓紹介
5. 歓迎のことば 只野由依
6. 新入生のことば 江波戸菜々
7. 校歌斉唱 指揮 佐藤愛里 ピアノ 湯浅美幸
8. 閉式の辞



学長式辞

かねこしげのり
金子 重紀



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、保護者の皆さま、おめでとうございます。新入生の皆さんは、これから2年間をこの千葉明德短期大学で過ごすことになります。期待と不安が入り混じっているのではないかと思います。

さて、千葉明德短期大学は、保育創造学科だけの単科大学です。学科名に「保育創造」という言葉をつけているのは、千葉明德短期大学だけです。なぜ「保育創造」とうたっているのでしょうか。それは、私たちが保育について、次のように考えているからです。



子どもの育ちは誰一人同じではない。ゆえに子ども理解とそのかわりに一つの答えはない。保育は創造的な営みである。それを担う保育者の教育も創造的でなければならない。

皆さんは、卒業する時には幼稚園教諭として、あるいは保育士として保育現場に出ることになります。保育現場で子ども一人ひとりの育ちに必要な支援を考える時、何か決まった一つの答えが用意されているのでしょうか。

多くの学校では、テストの答えは一つとされています。しかし、これからは違います。答えは一つとは限らないのです。これは、答えがないということではありません。むしろ答えはたくさんあるかもしれません。

なぜなら、これからは皆さんが、それぞれ自分なりに見つける意見や考えが答えとなっていきます。そして、自分なりの答えを見つめることが、学ぶことなのです。さらに、学ぶためには、他の人がどう考えているのかを聞くことも大切です。それが学び合うということです。互いに学び合い、一人ひとりが自分なりの答えを見つけ、子どもを始めとした自分とは違う他の人と出会うことで、また新たな答えを創っていく。それが、創造するということです。

私たち教員は、このように考えながら、皆さんと一緒に保育について考えていくこと、学び合うことを心がけていきます。そして、皆さんの学びを支援していきます。

私たちの支援は、皆さんの卒業後も続きます。皆さんが専門職である保育者として一人前になるには、卒業してからも学びは続いていくでしょう。ですから、現場に出たのちに悩んだら、あるいは学び直したかったら、千葉明德短期大学に戻って来て欲しいのです。そこから、さらに共に学びたいと私たちは考えています。そのために、皆さん一人ひとりが相談できる人と、一人でいいですから出会ってください。教員でも事務職員でもいいです。もちろん私でもいいです。

そうして皆さんと一緒にこの千葉明德短期大学をより良いものにしていきたいと考えています。是非、千葉明德短期大学での2年間、学ぶことを楽しんでください。

次号では、新学長へのインタビュー記事を掲載します。お楽しみに！

理事長挨拶

ふくなかよしあき
福中 儀明



132名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
またご家族の皆様方、おめでとうございます。

本学は1970年に創立されました。皆さんは第46回の入学生になります。

新しい出発という、このよき日、まず最初に本学の名前「明德」の由来について説明させていただきます。

今から約2000年昔に書かれた中国の古典「大学」の中に「明德」という言葉が出てきます。「大学」といっても高校に続く大学のことではありません。「小学」に対する「大学」の意味です。「小学」といっても小学校のことではなく、「小さな学問」いわゆる、よみ・かき・そろばん、といった個人が生きていくために必要な身の回りの基礎的な学問——これが小学です。

一方、大学は小学よりもっとレベルの高い大きな学問——自分が生きるためではなく、世のため、人のためになる学問を意味します。

「大学」を究めるためにはどうしたらよいのか？ この本の中には次のように書いてあります。——「大学の道は明德を明らかにするにあり」

「明德」とは人が天から得たすぐれた能力、人間として生まれながらに持っている人間性であり、明德を明らかにする、とはそれを輝かせる、ということです。

さらに続く一節には、「明德を明らかにせんと欲する者は先ずその知を致す」とあります。明德を明らかにするためには、まず知恵と知識を身につけ知性を究める。そうすれば善悪の判断ができるようになり、心が正しく豊かになる——ということです。

本学は小さな組織ですが中身は豊富に詰まっています。同じキャンパス内には附属幼稚園があり、こども臨床研究所があります。学校附属としては千葉県内最初の明德本八幡駅保育園があり、さらに2番目の駅型保育園である明德浜野駅保育園もあります。姉妹法人である社会福祉法人千葉明德会の明德土気保育園もあります。2年前には千葉明德会の2番目の保育園として習志野市内に明德そでの保育園も開園しました。そしてこの4月からは子供子育て支援新制度が発足し、それに合わせて県内八街市に明德やちまたこども園も開園しました。

ですから皆さんは今日から本学の学生になっただけではありません。入学と同時に幼稚園や保育園やこども園の研修スタッフになったと考えていただいたほうがよいでしょう。明德という「総合保育創造組織」の一員に加わったのです。

皆さんのこれからの学びと活躍に期待し、理事長よりの祝辞と致します。



歓迎のことば

ただの ゆい
只野 由依

い



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんはどのような気持ちでこの日を迎えられましたか。これから始まる新たな日々、期待や不安の気持ちを抱えていることと思います。

私は今この場に立ち、1年前の今日のことを思い返しています。私はこの1年間、実習で「保育者としてやっていける自信」、授業で「自分が少し変わったという実感」を得ることができました。それをこれからお話します。

1年生の実習は、月1回の幼稚園実習と、1月後半から2月にかけての保育実習、施設実習がそれぞれ2週間ずつあります。保育所の実習では、2歳児クラスに入りました。

ここでは、ある男の子に、排泄・食事・午睡など、生活習慣の援助をする時、頑なに拒否され、とても困りました。こうした生活習慣の援助は、その子どもとの間に信頼関係ができていないと、なかなかさせてもらえません。そこで、悩んだ私は、その子との距離を縮めるために、よく一緒に遊ぶようにしていました。それでも最初のうちは、午睡でのトントンを「イヤ」と拒否されてしまいました。でも、なんとかさせてもらいたくて、「先生トントンしたいから、少しだけさせてほしいな？」などと毎日お願いしていました。すると、日が経つにつれ、トントンを許してもらえるようになっていきました。

もちろん、これは私が実習生としてトントンをしたいからお願いしていたのであって、この子にしてみれば、かなり余計なお世話だったことでしょう。でも、トントンさせてもらえるようになったことで、徐々にその子との距離が縮まり、わずかではありますが、信頼関係が築けたように思えて、嬉しくなりました。

施設の実習では、障害をもった大人が生活している施設に入りました。施設で出会った利用者さんで、会話がほとんどオウム返しのため、コミュニケーションを取ることが難しい方がいました。最初は何を話していいのかわからなかったのですが、生活を共にする中で、その方の好きなものがわかりました。それは、「トントントンひげ爺さん」の歌です。

それに気がついたのは、たまたまCDから流れてきた「ひげ爺さん」の歌に、大はしゃぎした姿を見た時でした。そこで私も「トントントンひげ爺さん」と歌ってみたところ、同じように笑ってくれたのです。

それからというもの、施設の中で会うたびに、その方から「トントントン」と歌ってきけるようになりました。このことがきっかけで、この方とのコミュニケーションにも、何ら不安がなくなりました。

保育所の実習でも施設の実習でも、信頼関係を築くには時間が必要であることを実感しました。しかし、それ以上に感じたのは、少しずつ相手との距離が縮まり、関係が深まっていくことの喜びです。この喜びが、保育者の醍醐味なのだと思います。

実際、実習では嬉しいことばかりではありませんでした。夜遅くまでかかった実習日誌。挨拶や服装に関する厳しい指導。でも、実習期間をやり終えることができたのは、この関係を築くことの喜びが、何よりやりがいになったからでした。この喜びを感じられる限り、私は将来、保育者としてやっていけると思うようになりました。

「少し変わったという実感」が得られたのは「基礎ゼミ」という授業です。

この授業は、先生方が企画したテーマの中で、自分が興味のあるものを選択し、先生と学生と一緒に授業をつくっていくというものです。

私が選択したのは、学内でギター弾き語り路上ライブをする、というものでした。

私は、本当に音楽が好きで、小さい頃から音楽にいつも触れていました。それでも、人前に立つことが得意ではない私がこのゼミを選択したのは、少しでも積極的な自分になりたい、今の自分を変えたいと思ったからです。

そうは言うものの、このゼミは多くの人が希望すると思っていたのですが、蓋を開けてみれば、なんと希望者は私1人。さすがにこの時は選択したことを後悔しました。しかし、先生と2人で選曲・練習・ライブを重ねていくにつれて、緊張の気持ちもありながら、だんだんと楽しめるようになっていきました。

それは、この学内路上ライブを見てたくさんの方が話しかけてくれるようになり、何よりライブを聴きに来てくれる人たちがとても楽しんでくれているように感じられたからです。この路上ライブをきっかけに、私は以前よりも人前に立つことが苦手ではなくなりました。以前の私だったら、こうして皆さんの前でお話するなんてことは、とてもできなかったと思います。

「実習」と「基礎ゼミ」を経て、少しではありますが、私は「自信」と「自分が変わった」という実感を得ることができました。

これから入学する皆さんに、「歓迎のことば」として伝えたいことは、「自分を変えたい」「成長したい」と思ったなら、迷わず、失敗を恐れずやってみた方が良いということです。

この学校には、実習や授業、それ以外にも、チャンスはたくさん用意されています。私も2年生になって、まだまだ変わりたい、成長したいと思っています。

新入生の皆さん。これから私たちと共に、自分の良さを見つけ、それを伸ばして、学校生活をより充実したものにしていきましょう。

新入生のことば

えばとなな
江波戸 菜々



春風が心地よいこの頃、私たち新入生は、千葉明德短期大学に入学します。本日は私たちのために、このような式を行っていただき、ありがとうございます。新入生を代表し、お礼申し上げます。今は、これからの短大生活において、多くの友人と出会い、共に学びあえるであろう喜びと期待で胸がいっぱいです。



今思えば、初めてのオープンキャンパスに訪れた時、まず感激したのは、先輩方が温かく受け入れてくださったことでした。そして、話をさせていただくうちに、そのご様子から、日々の学校生活が充実したものであると感じられました。具体的には、「冒険パーク」の活動です。

「冒険パーク」とは、地域子ども達が楽しめそうな遊びを学生が企画して触れ合う場だそうです。保育実習は、園で子ども達しか見ることができませんが、「冒険パーク」では、園とは違った子ども達の一面を見ることができると思います。将来子どもと向き合う職業に就くとすれば、いろいろな角度から子どもを見て接することで、何かしら得るものがあると思うのです。このように、先輩が楽しく保育について学んでいるなら、きっと私も、この短大で同じように楽しく学べるはずだと思いました。

また、私はこの短大に入学する前から、「保育セミナー」や「保育体験」などで現場に行き、子ども達と多く関わってきました。この体験は、子どもとかわることを楽しみにしていた私にとって、楽しく貴重なものとなりました。実習以外で保育現場に多く出られることもまた、この短大の大きな魅力の一つです。

入学後は、保育の基礎はもちろん、子ども達と多く触れあい、日々成長していきたいと思います。どうぞ、よろしく申し上げます。

共に楽しく学び合いながら、「自分の良さを見つけ、それを伸ばす」2年間にしていきたいと思います！



「あそび基礎演習」での学生の姿

入学して1週目の4月9日。「あそび基礎演習」の授業で、教員4名と1年生132人全員で、新聞紙を使って遊びました！





「あそび基礎演習」の授業は、造形・音楽・身体・言葉の4つの分野から、それぞれのさまざまな遊びを学ぶ授業です。そしてこの授業では、学生の皆さん自身が思い切り遊び、表現する楽しさを味わうことを、まずは大切にしています。通常授業では、それぞれの分野に分かれて授業を行います。年に6回、全ての分野を統合した総合表現とする遊びを、学年全体で展開する合同授業を行います。

授業の初回となる4月9日の授業では、そんな本授業のあり方を伝えるために、各分野の教員全員と1年生全員との合同授業で、「新聞紙」を素材として遊びました。

ねらいは、「さまざまな人と出会うこと」、「新聞紙という素材を使ったあそびの多様性を味わうこと」。まずはなるべくたくさんの人と関わるため、そして心身をほぐすため、動きのあるコミュニケーションゲーム。そして「新聞紙」を素材に、体を使った「新聞紙リレー」、叩いたりこすったり破いたりしながら新聞紙の音を味わい皆で奏でる「新聞紙アンサンブル」。そして、思いのままに新聞紙を破いて天井高く投げて遊んだ後は、そのキレをつなぎあわせて講堂いっぱい高く広がるオブジェを制作しました。

この第1回目の授業を通して私が思ったことは、皆、遊ぶことを楽しめる人たちだということです。そしてこれは、何度か授業を重ね1ヶ月経った今も変わりません。これは当たり前のことのように、遊びが学びとなる保育において、皆さん自身が遊びを楽しめることはとても大切なことだと考えています。皆さんの生き生きとした表情とハツラツとした動きに、私もやりがいを感じています。「楽しむ力」、「自ら楽しもうとする力」を、これからも、どんなことに対しても、大切にしてほしいと願っています。もちろん、私も、楽しみながら、皆さんと授業をつくっていきたいと思っています。（田中 葵）



他の先生方にもメッセージを聞きました！

誰とでも一緒に遊べる。誰とでも協力できる。

そんな1年生の姿が見えてきました。
音の響きやひとつひとつの遊びに感動している姿が印象的で、
私はそんな感動している皆さんの姿に感動しています。
この気持ちを忘れないで1年間過ごしてくださいね！（池谷 潤子）

性別・年齢を越えてひとつのことで遊ぶ姿は、見ていて気持ちが良いです。
素直にそのまま、学生生活を楽しんでほしいと思います。（古山 律子）

今年度は社会人を経験した学生が多くいるため、
彼らの関心の持ち方が、学年全体を引き上げているよう感じます。
皆、メモもよく取り、私の投げかけにも素直な感情表現で反応してくれる。
遊びに対する意識も高いので、とても期待しています。（深谷 ベルタ）



自分で選ぶ授業の始まり

2年生の4月。それは、さまざまな授業の中から自分でコースを選択しなければいけない月です。「あそび技能演習」は6コース、「現代社会論」は9コース、「保育方法演習」（通称：ゼミ）は11コース、「フィールドワーク」（通称：わくわく体験研修）は9コース。これらのコースを受け持つ各教員の説明を聞き、シラバスを読みながら、自分が1年間学びたいコースを一人ひとりが1ヶ月かけて選びました。

このような選択を迫られながら4月を過ごした2年生4人の声を紹介します。



保育を学ぶ中で、去年はさまざまな興味や疑問が生まれた1年間でした。その経験を経て2年生になり、先生たちからそれぞれの授業内容を聞くと、私が抱いてきた興味や疑問と合う内容がいくつもありました。「気になる授業は全て受けて！」と思ったため、1つのコースに絞って選ぶことがとても難しかったです。しかし、深谷先生のゼミは、私が保育実習で抱いた「言葉」についての疑問が解決できるかもしれないと心惹かれました。これから、似たようなことに興味関心を持つ仲間と意見を交わすことができることがとても楽しみです。

2年生では、子どもに直接関係のあることだけでなく、もっとたくさんのことを知りたいです。疑問に思ったことや興味が湧いたことの表面的なこと、目に見え耳で聞こえることだけでなく、その裏側、物事の背景や意味を深く追求したいです。そして学んだことを自分のものにし、今後の保育に活かしたいです。



前塚 和樹さん

2年生になったこの1ヶ月は、「自分は何をしたいのか」と考えるきっかけになりました。

1年生の時は訳も分からず履修登録をし、単位をとるためだけに授業を受ける毎日を送っていました。自分で考えて決めなくても、学校の決めた最低限の道に沿っていけば何もせずとも2年生へと進めたからです。

しかし、2年生になった途端にその道は選択肢だらけになりました。現代社会論をはじめ保育方法演習等、自分が学びたいものを選択する授業が多くなり、必然的に「自分は何をしたいのか」を考えるようになりました。ただ単位を取るためだけに履修登録していた1年生とは違い、選択することによって、私は自分の興味関心を知るきっかけになり、学びたい授業を選ぶことで新しい自分を見つけることもできると思いました。「自分で選ぶ」ということは「自分の将来の姿」を選ぶことに繋がるのだと思います。新たな学生生活を精一杯努力して頑張りたいと思いました。



吉野 聖華さん



宮内 花陽子さん

2年生になり、自分で責任を持って行動することの大切さを改めて知りました。1年生の時は何もかも初めてで不安も多く、先生方の助けを借りながら行動をしていました。ですが、私も就職活動をする学年になりました。就職すると自分自身も先生になり、先生や友達に頼ってばかりではなく、一人で動けるようにならなければと思っています。周りの友達は、2年生になると各自で動くようになり、それを見て、自分もしっかりしなければと思うようになりました。6月から始まる3週間の幼稚園実習も多くの不安がありますが、準備をしっかりと、一人でも大丈夫な自信に繋がれたら良いと思います。

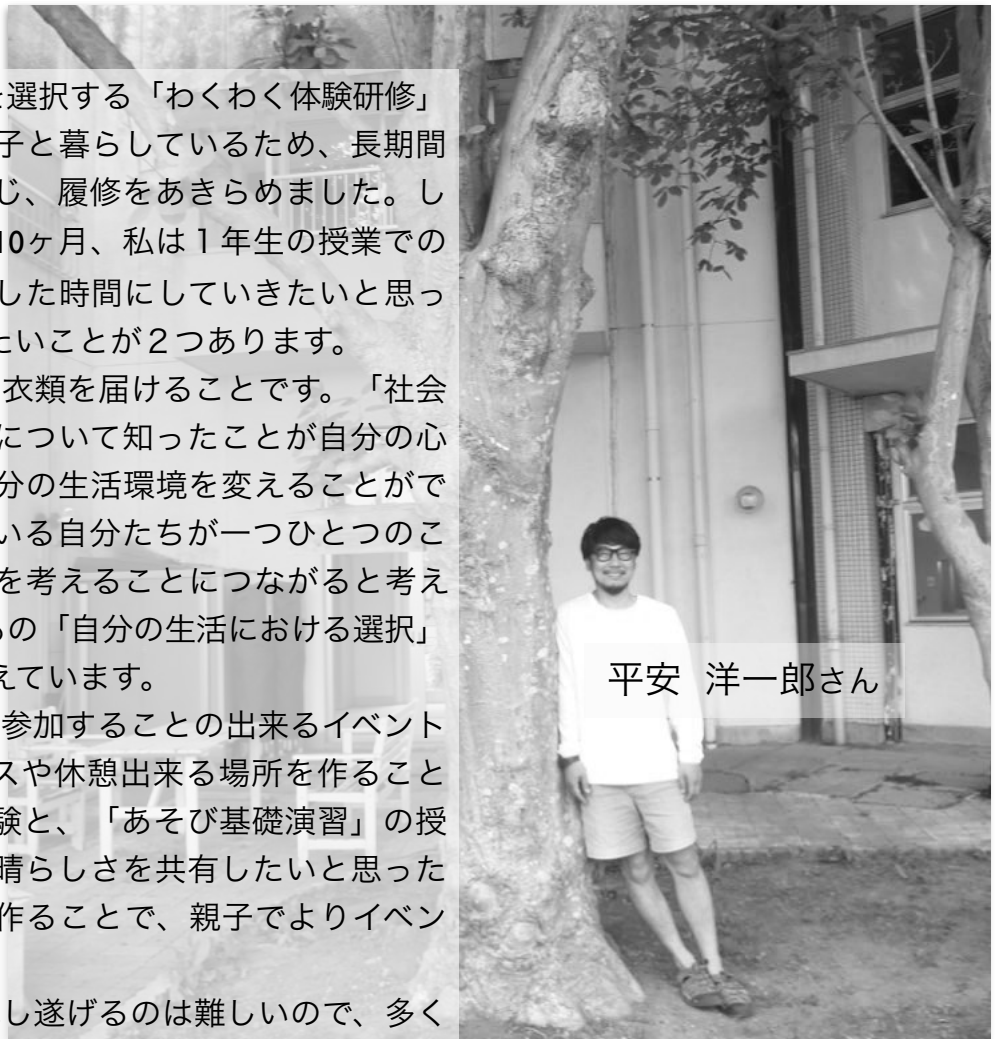
また、私には1年生の時に目標とする先輩がいました。自分もそのような存在になりたいと思っています。1年生の時は部分実習の前に、相談できる先輩がいるのといないのとでは全然違ったと思います。先輩がいなくなってから1年生の時の自分を振り返ると、もったいないと感じています。私は2年生として、これまで学んだことを1年生に伝えていきたいと思っています。多くの1年生が入学してきたので、2年生としての責任、自覚ある行動をとり、今後の学校生活をみんなと過ごしたいです。

2年生の4月に履修コースを選択する「わくわく体験研修」は魅力的なのですが、私は息子と暮らしているため、長期間家を空けることは厳しいと感じ、履修をあきらめました。しかし、学校を卒業するまで約10ヶ月、私は1年生の授業での学びを実践する「わくわく」した時間にしていきたいと思っています。今、私には活動したいことが2つあります。

1つ目は、児童養護施設に衣類を届けることです。「社会福祉」の授業でこどもの貧困について知ったことが自分の心を動かしました。こどもは自分の生活環境を変えることができないけれど、福祉を学んでいる自分たちが一つひとつのことを考えることが、福祉全体を考えることにつながると考えています。この活動が、こどもの「自分の生活における選択」が広がることに繋がればと考えています。

2つ目は、こどもを連れて参加することの出来るイベントなどで、こどもが遊ぶスペースや休憩出来る場所を作ることです。これは私の子育ての経験と、「あそび基礎演習」の授業で学んだ遊びの重要性や素晴らしさを共有したいと思ったからです。こどもの居場所を作ることで、親子でよりイベントを楽しめると考えています。

ただ、この2つを1人で成し遂げるのは難しいので、多くの学生と一緒に実現したいと思っています。



平安 洋一郎さん

教員からのおすすめ

PROFILE



教員名

ふるやまりつこ

古山 律子

担当科目

音楽表現とピアノⅠ・
あそび基礎演習

メッセージ

明徳の森の若葉が眩しい季節になりました。私は昨年12月に育休から復帰し、この春から授業を再開しています。日々慌ただしく過ごしているのですが、本館3階にある研究室の窓を開けて冬から春、やがて初夏へと移り変わる景色を眺め、風を感じると、心がすーっと穏やかになっていきます。新しい環境のもとで少し肩に力が入っているみなさん、ほんのひととき身近な緑を眺めて深呼吸してみてもいかがですか？

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。

今年度第1回目は、古山先生から皆さんへのおすすめを発信です。図書館自体がおすすめなことは言うまでもありません。

絵本『花さき山』

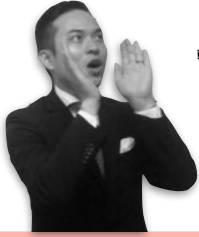
斎藤隆介・作 滝平二郎・絵 岩崎書店 (1969)

「教員からのおすすめ」というコーナーの原稿依頼をいただけてから、あれやこれやとずいぶん悩みました。好きな本や音楽、映像など、様々なものの中から熟慮の末、斎藤隆介・作、滝平二郎・絵の『花さき山』をご紹介します。

この絵本は、私にとって大切な1冊です。今からもう10年以上前のこと、私は都内で幼稚園教諭をしていました。5歳児を担当すると就学を迎える頃、必ず『花さき山』を読みました。何度も何度も読みました。読んでいる時の子どもたちの表情をみていると、「あー、このような物語の世界を味わえるようになったのだなあ」と巣立ちの時期を前に成長を嬉しく感じたことも思い出されます。斎藤隆介のことばと滝平二郎の切り絵は、一瞬で心をつかみ、じっくりじっくり読み進めていくと、最後には子どもたちがしーんと静まりかえるような絵本なのです。このような不思議な魅力をもつ作品は、他に探しても見つかりません。

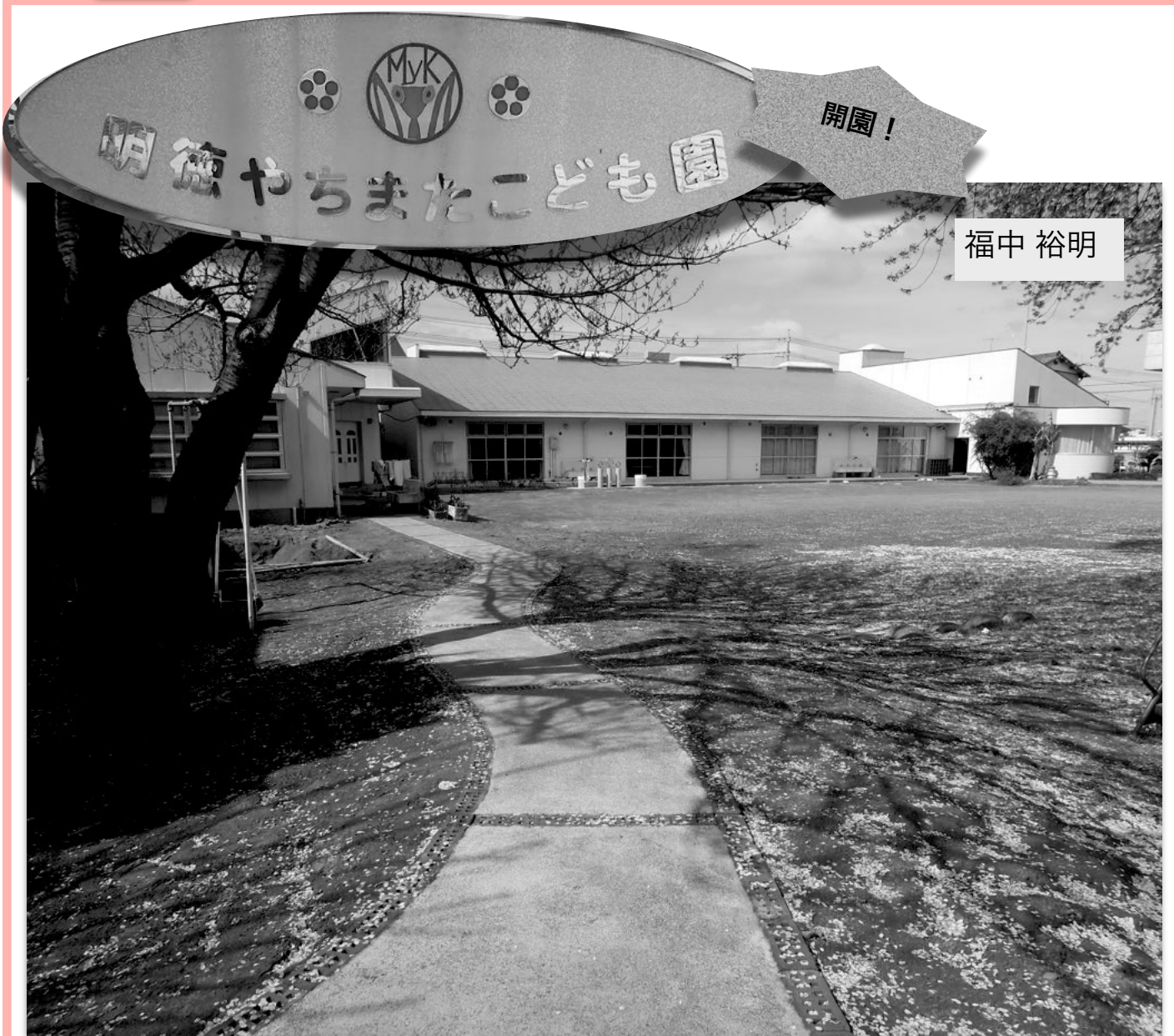
大人になってから読むと、これがまたとても胸を打つのです。『モチモチの木』をご存知の方は、表紙をみると「この絵本なら、ちょっと知ってる！」と思うかもしれません。同じ斎藤、滝コンビの名作です。どうぞ一度手に取ってみてください。





! hot news !

new movements of this month in meitoku
! 今月の明德速報 !



2015年4月1日、千葉県八街市に「明德やちまたこども園」が開園しました。たくさんの系列保育施設を持つ明德にとっても初のこども園であり、また八街市にとっても初のこども園です。「こども園」とは幼稚園と保育園が合わさった新しい仕組みの園で、幼稚園籍と保育園籍のこどもがいます。

こども園は、3月までは学校法人北総学園が運営する八街幼稚園でしたが、4月からは千葉明德学園のこども園として生まれ変わりました。八街幼稚園は1968年から続いた歴史ある幼稚園です。

明德やちまたこども園は、3月まで明德短大で学長を務めた簸先生が園長をしています。また、明德短大の職員や学生だった方も園で働いており、足踏みつきの楽しい園歌を作ってくださったのは、本学の授業「現代社会論」を担当している非常勤講師のよしなか先生です。短大をご存知の方からすれば、きっと懐かしい気分になることでしょう。



4月4日には入園式を行い、同日午後には開園式を行いました。

入園式には0～4歳の28名のこどもが参加しました。4日というのは、幼稚園の入園式としてはかなり早い日程です。一方保育園は入園式自体なかったりしますし、保育園は通常通園自体は4月1日から始まります。こども園は幼稚園でも保育園でもあるのだとすれば、どのような入園式をすればよいのでしょうか。

こうして、1つ1つの行事や決まりに、こども園独自のルールが出来ていきます。「幼稚園だから」「保育園だから」といった前提がないのです。そうした新しい枠組みで、柔軟に考えて進められる良さが、こども園にはあります。「こどもの育ちのためにどうすべきか」といったコンセプトでルールを組み立てることができる、やりがいのある園です。

開園したばかりのこども園、準備に追われスタッフは大変な日々を送っています。まだまだやらなければいけないことが山積みです。だから、「総合保育創造組織」の一員である皆さんは、機会を作って明德やちまたこども園に行きましょう。そして、スタッフと一緒に保育を創りましょう。掃除だったり庭造りだったり、猫の手だって喜んでくれるはずですよ。



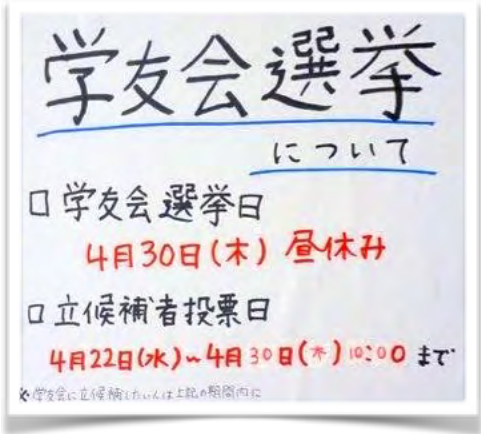
“猫の手”になり、
明德やちまたこども園に行こう！

👉この日のおやつは
手作りケーキ

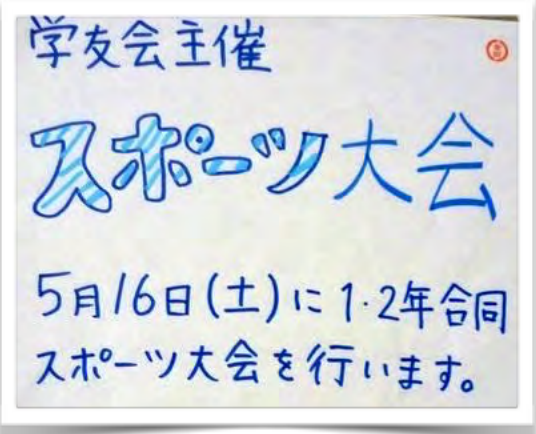
MEITOKU SNAP



☞ 学友会・サークルのお知らせを伝える掲示板は、学友会室入口（食堂内）にあります。これからも、学友会発信の楽しい行事はここに掲載されそうです。次はどんなお知らせが発信されるのでしょうか？



4月30日に、学友会選挙が行われました。また、5月16日には学友会が主催するスポーツ大会が開かれます。次号ではその時の様子もお伝えします。



！次号予告！

お楽しみに！

学生ページ

学生の「月歩学歩委員」により、明德の「今」を学生が発信していきます。今、輝いている人、コツコツ頑張っている人を紹介したり、学生が楽しんでいること、頑張っていることなどを伝えていきます。



明德の5月



15日(金)



▶ 教育実習Ⅱ事前訪問(2年生)

16日(土)

▶ 学友会主催「スポーツ大会」

19日(火)

▶ 第51回スタバお話ライブ

22日(金)

▶ 保育体験(1年生)

24日(日)

▶ 障害者スポーツ大会ボランティア
(1年生)

30日(土)

▶ オープンキャンパス



長い冬が開け、お花たちも彩り豊かで、心洗われます。学生たちが、授業の合間に春の陽気を満喫している姿を見かけるようになりました。ところで、正門の脇に、新しい花壇が出来ています。もう散策しましたか？

編集後記

新年度が始まって1ヶ月が経ちました。生き生きと学校生活を楽しむ1年生、自分の進路を見据え、自分の歩みを後輩に伝えたいという思いのある2年生の姿があります。2年間しかない短大です。学年を越えて関わってみてはいかがでしょうか。

さて、「月歩学歩」編集委員は新しいメンバーになっての発進です。しかし、昨年度同様、明德の様子を生き生きと、そして学生の声を中心に発信していきたいと思っています。今年度第1号となる本紙はいかがだったでしょうか。明德に集う人と、そして読者の皆さまと、この「月歩学歩」を創っていきたくて考えています。お読みになってのご意見や感想など、皆さまからの声を心からお待ちしております。(田中)

★INFORMATION★

明德HPの「めいたんブログ」でも、明德の「今」を日々発信しています。ぜひご覧下さい。

<http://chibameitoku.blog53.fc2.com>

発行：千葉明德短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

編集

田中 葵

鶴田 真二



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せ下さい。